

平成22年4月15日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19402035

研究課題名（和文） 「結社」に関する学際的海外学術調査

研究課題名（英文） Interdisciplinary academic research in abroad on association

研究代表者

白鳥 義彦（SHIRATORI YOSHIHIKO）

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授

研究者番号：20319213

研究代表者の専門分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：結社、学際性、海外学術調査、地域的比較、歴史的比較

## 1. 研究計画の概要

（1）本研究は、フランス、アメリカ、イギリス、南アジアといった、それぞれの社会についてこれまで研究を蓄積してきた研究代表者および研究分担者が、「結社」という共通のテーマに基づき、新たな観点から海外学術調査を行って研究を進めようとするものである。

（2）また、本研究への参加者の各々の専門分野は社会学、歴史学、文学と多岐にわたるが、狭小な専門の枠の中にとどまることなく、分野を超えた幅広い観点から問題に取り組むことは本研究の特長である。

（3）本研究では、フォーマル、インフォーマルなものを含めて人々の集まりを「結社」として広くとらえる視点に一旦立った上で、多様な時代と地域を対象にしながら比較考察を進めることにより、「結社」の本質的な意味を明らかにすることが可能となり、「結社」の有する多様な側面を明らかにする。

（4）そして、上記の諸観点から得られた研究成果をもとにして、現実の現代社会の諸問題に対して、新たな視点を提示することが本研究の目的である。

## 2. 研究の進捗状況

本研究の問題関心として提起している、「結社」の概念を幅広く捉え、「結社」の多様性と、社会における人間の活動を考察する際の「結社」という枠組みの有効性を把握する、という研究の枠組みを重視しながら、研究を遂行してきている。こうした問題関心を踏まえつつ、社会学、文学、歴史学といった人文学の学際的な共通基盤の上に、「結社」という研究視点を共有しながら、フランス、

イギリス、ドイツ、イタリア、ベトナム、香港、日本等、現地でのフィールド調査や資料収集さらには研究者との交流等を中心として、研究のさらなる展開を図ってきている。同時に、海外からの研究者の招聘を通じて、国際的な研究交流を行い、それによって研究の深化を進めることも行っている。研究フィールド調査では「結社」の現代的な意義について特に関心を寄せて調査を行い、また資料収集では歴史的な流れの中での「結社」の位置づけにも十分に関心を寄せながら研究を進めている。「結社」の現代的な意義と歴史的な展開との双方に関心を払いながら研究を行ったことは、研究を進める上での問題意識として、継続して重視している点であり、研究を進めていく上での有効な観点となっている。また現代諸社会における「結社」の意義を、歴史的な展開のコンテクストを踏まえつつ明らかにするという、本研究の全体的な目的を念頭に置きながら、これまでの研究成果の一部を、著書や雑誌論文、国内、国外における学会発表等を通じて公にしている。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

本研究の第一の目的である、海外学術調査を毎年継続的に進めることができてきている。また、研究成果の公表もすでに行うことができてきている。

## 4. 今後の研究の推進方策

本研究課題の最終年度にあたる2010年度には、これまでの研究成果を踏まえつつ、

さらに海外および国内での学術調査を継続して行い、最終的な研究成果報告を取りまとめる予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

- ① 油井清光、「グローバル化の下の『複数の第二の近代』—個人、中間集団、そして国家—」、『社会学評論』、第60巻第3号、2009年、330-347頁、2009年、査読有。

他7件

[学会発表] (計14件)

- ① SHIRATORI Yoshihiko, “The role of associations in the modern society”, The 38th World Congress of the International Institute of Sociology, 28 June 2008, Central European University, Budapest, Hungary.
- ② 白鳥義彦、「モースの協同組合論」、デュルケーム・デュルケーム学派研究会、2008年4月19日、和歌山大学。

他13件

[図書] (計12件)

- ① SATO Hikari, *William Blake and Multiculturalism: Between Christi-anity and Heathen Myths*, Ph. D. thesis, Birkbeck College, University of London, 2008, 301p.
- ② 共生倫理研究会編(樋口大祐、真下裕之、小山啓子、白鳥義彦分担執筆)、『共生の人文学—グローバル時代と多様な文化—』、昭和堂、2008年、xv+258頁(樋口150-168頁、真下190-214頁、小山215-238頁、白鳥239-255頁)。
- ③ MASHITA Hiroyuki (ed.), *Royal Asiatic Society Classics of Islam II. The Muslim World 1100-1700: Early sources on Middle East History, Geography and Travel*, Routledge, 2007, 8 volumes.

他9件